



カラフル
まつさか まさお
松坂 昌應 議員

道路等の保全・改善

Q 消えかけた白線などをこまめに塗り替えるような保全も大事だが、時代の変化（歩行者優先、自転車ブームなど）に対応して改善はなされているか。

A 例えば、加美町公衆トイレ交差点横断歩道の設置要望に対して、「アーケードにも安養寺交差点にも横断歩道があるので、円滑な交通の流れを踏まえると難しい」と鉄砲を持った警察は難色を示すが、車優先の考え方ではないか。市の実情をきちんと伝えれば変わると思う。是非、歩行者優先で考えていただきたい。
A 色んな方からの要望を、各方面に相談しながら進めていく。ただし警察がウンと言わないケース（加美町横断歩道）もある。

日本一の防災を目指して

Q 地域自主防災の主体である自治会町内会に職員を職務として配置してはどうか。

A 先進自治体事例では、地域担当職員を配置してある例もある。もっか研究中、十分検討したい。

有明の森不正会計問題

Q まだ究明は終わっていないという認識でいいか。

A 警察の捜査に委ね、引き続き問題解決に向けて取り組む所存。

Q 議会特別委員会では、職員が指定管理者に貸した多額の金銭の動きを、個人と指定管理者の私的な事として、市の扱う範囲ではないとしたが、第三者委員会は問題視している。指定管理者も借りているとの認識。きちんと究明すべき。

A 複数職員が資金提供したことは認識している。なぜそれだけ出さざるを得なかったのかも一番知りたいところ。いろんな捜査機関等の力を借りてでも解明していきたい。

【その他の質問項目】
◇島原半島は一つ



公明党
まつさき こうだい
松崎 広大 議員

安中まちづくり協議会

Q 安中まちづくり協議会とは。

A 地区の伝統行事の存続の危機などを地域課題と捉え、町内会や自主防災会、青少年協などを中心に各団体が連携し、活気ある地域づくりができるよう、準備会を経て令和4年12月に本市で初めて発足。将来を見据え、魅力ある地域づくりに取り組まれている。

Q どのようなロードマップを展望しているか。人的・財政的なバックアップは。

A 地域コミュニティづくりを重要課題とし、地域性を踏まえて解決に向けた話し合いができるよう、準備会を立て、安中地区をモデルに市内全域に広がっていくよう取り組みたい。

また、支援員を安中地区に配置した。地域に沿うアンケート実施の事務費等も計上しており、各地域で

立したコミュニティが進むよう国の制度等を用いながら、財政的な支援の検討も行う。

島原市の不登校対策

Q 文科省より「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策『COCOLOプラン』」が発表されたが、市の不登校児童生徒の現状と見解は。

A 様々な要因で年間30日以上登校しなかった児童・生徒は、昨年度小学校18名、中学校55名。一人一人に寄り添う教育活動と、適性に応じた支援、児童・生徒すべてに学びの場を確保するよう体制の構築に今後も努めていく。

Q 端末を使ったオンライン授業の現状は。

A 一人1台端末の配備が完了。コロナ拡大時にオンライン授業を実施した学校もあり、学びの場の保障については実践を増やしている。

【その他の質問項目】

◇雲仙岳災害記念館、こどもジオパーク年間パスポートの再開